企業内弁護士と外部弁護士の魅力比較

会員　寒川 智美（54期）

この7月に，13年あまりの会社員生活に終止符を打ち，事務所での執務を再開した。長かったようで短い，短かったようでやはり長かった13年。両者の魅力を（欠点でなく）比べてみる。

まず，企業内弁護士の魅力第1位は，多様な人と特殊な一体感を持って仕事ができることである。経営者のひらめきや苦悩，企画担当者の慧眼と深慮，営業担当者の情熱，開発者の嗅覚・突破力，工場設計・運営における緻密さ・用意周到さ，人事担当者の親切さと腹黒さなどの周囲の才能に圧倒されつつ，法務の専門性を発揮し，アイディアを出し，周囲と融合しながら事業活動をする。これは非常に刺激的で，純粋に楽しい。

魅力第2位は，ベタだがワークライフバランスが良いことである。もちろん，業務によっては土日の稼働もあるし，早朝・深夜の会議もある。ただ本当に困難な場合は，周囲に相談すれば（日本では）サポートが得られることが多く（逆に自分が周囲を支援するときもある），組織として何らかの対応がされることが多い。1人欠けても事業が止まることはない。「歯車」であることは悪いことばかりではない。

企業内弁護士の魅力第3位は，ランチを摂る時間があること。会社では基本的に昼休みが確保され，昼食が摂れる（急げば仮眠も可能，寝言に注意）。しかも，社員食堂では，刑務所のように食の不満が職場への不満に影響すると配慮されているのか，1食400円程度。但し，お味の方は値段相応である。

次に外部弁護士の魅力に移る。まず第3位だが，外出が増えてビールがおいしい，机の上に書類を積み上げても注意されないなど諸々あるが，まじめに，法律知識を得る機会が多いことを挙げる。事務所には相当な雑誌・書籍があり，弁護士会の研修も，東弁ネット研修という定額使い放題のサービスもある。同じ事務所の弁護士とは当然だが，他の事務所の弁護士ともノーネームベースで，事案について議論し，懸念点を相談できる。恵まれていると思う。

外部弁護士の魅力第2位は，自己責任で時間を自由に使えることだ。会社では中々難しい。ノンコアフレックスの会社とコアフレックスの会社に勤務したが，前者はコアタイムの時間帯にもよるだろうがあまり意味がなく，後者は上司次第であった。大らかな上司の元では外部弁護士と同様自由を謳歌できるが，細かい上司にはフレックス利用の正当理由がないと気まずく，「前日が飲み会のため」などというのはよろしくない。また「中抜け」には意外と強い圧力がかかる（ように感じた）。入社2日目，通勤用の自転車を買うために1時間半ほど外出したら白い目で見られたことを思い出す。さらに最近は，働き方改革により午後8時以降の就業は原則禁止である。これに対して外部弁護士は，自分の責任で時間を管理できる。夜中まで業務に追われるのも（まだ）楽しい。飲み会の翌日に遅めに出勤し，集中して仕事をするのもまた幸せである。

最後に外部弁護士の一番の魅力だが，私にとっては，いろいろな方と多彩な仕事ができることである。企業に入る前には意識していなかったが，様々な依頼者から事情を伺い，ときに教わり，依頼者の悩み抜いた決断を実現するよう多面的にお手伝いをすることは，ドラマティックで有意義である（ことが多い，と思う）。

いろいろ書いたが，まずは外部弁護士新1年生として，日々研鑽に努めたい。